

図工 だより



第14号

※前回は第13号でしたが、第12号となっていました。訂正いたします。

府中市立
府中第七小学校
図画工作科
令和3年
1月8日発行
伊藤 志帆

今年もよろしくお願いいたします

新しい年が始まりました。令和3年も、子供たちが楽しみながら、自分なりの表現ができる図工の授業を目指します。よろしくお願いいたします。

今年の年末年始は例年と異なり、田舎への帰省や旅行を控えた方が多かったかと思えます。私も実家には帰らず、テレビ電話でお互いの様子を報告しました。さみしくはありますが、便利な世の中になったと感じました。感染者数は膨大な数となり、年始めに緊急事態宣言の要請についての報道を目にした際は、また授業ができなくなるのかと心配になりました。図工の学習もタイミングや順番が大切なので、今年はいつもと違う形をとりながらも、しっかりと学べるようにと頭を悩ませました。これからも、子供の「楽しい」学びを大切に計画的に授業をしたいと思えます。

授業の様子



が怖がることなく全員使えるようになりました。ただ板を切るだけでは面白くないので、毛糸を巻いてすてきなかざりをつくりました。色使いもよく工夫できました。

前回紹介しきれなかった2学期の授業の様子を紹介します。今年の1年生は個人でできる油ねんどの授業が多めでした。もつとのびのできる授業が理想ですが、功を奏して指先で形をつくる力がすぐくついたように思います。図工室での授業も慣れてきたので、絵の具を使う授業もどんどんやりたと思います。

4年生は、電動糸鋸の使い方を学習しました



日本美術大好き

なにかと話題の「鬼滅の刃」ですが、日本画を思い起こさせる単語がよく出てくるので紹介したいと思えます。主人公の使う技で「生々流転せいせいりてん」という技がありますが、仏教の「すべてのものが形を変えて永遠に生死を繰り返す」という意味です。日本画の代表的な画家、横山大観の作品で日本最長の絵巻物の題名になっています。雨の一滴が川から海へ流れ最後は竜になる物語です。はじめは、絶対これが由来だと思えました。



横山大観「生々流転」大正12年